



## 『教会はキリストの体、一人一人はその部分』 コリントの信徒への第一の手紙 12 章 27 節

日米合同教会は、特にニューヨーク市近郊に住む日本人並びに日本に関心を寄せる人々に、礼拝、交わり、学び、伝道・宣教の業を通してキリストの福音をのべ伝え、キリスト者として共に信仰を深めていくことを目的とする信仰共同体です。

### ◇ 牧師からのメッセージ ◇

**レントの季節に「主イエスよ、私を忘れないでください」** 主の苦しみを覚えるレントの季節と主イエスの地上における最後の一週間を記念する聖なる一週間を目の前にして、ルカ 23 章 39-43 節を読み返してみました。ゴルゴタの丘のふもとにいる群衆は、十字架上のイエスに向かって叫びます。「ユダヤ人の王、十字架から降りて自分を救え。」◆イエスの右と左に一人ずつ死刑囚が磔にされています。一人は群衆と同じようにイエスに向かって叫びます。「お前はメシアか。そうならお前自身と俺たちを救ってみせろ。」もう一人の死刑囚はイエスに向かって懇願します。「主イエスよ、神国に入る時、私を忘れないでください。」彼に対するイエスの言葉は驚くべきものでした。「本当に言うておく。今日あなたは私と共にパラダイスにいる。」

◆レントの期間、何故このエピソードは特別な意味を持っているのでしょうか。それは、誰もイエスの「私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」という戒めを守ることができないからです。使徒パウロは正直に告白しています。「私は何と哀れな存在なのだろう。私はしたいと思うことをせず、したくないと思うことをしてしまふ。」レントは、自分自身を十字架上のイエスをなじった群衆の中に発見し、自分の不完全さ、弱さ、罪深さを悔い改める時です。その私たちを絶望から救うものは、イエスの死刑囚への「今日あなたは私と共にパラダイスにいる」という言葉以外にありません。◆レントは悔い改めの季節です。悔い改めとは単なる悔恨とは違います。悔恨は赦しを知りません。悔い改めは神の赦しを前提としています。赦しが与えられているからこそ、私たちは悔い改めることができるのです。レントが暗闇だけではない理由がここにあります。水を葡萄酒にし、目の見えない人に視力を与え、死を克服し、憎しみを愛に変革し、復讐を赦して覆い尽くされたキリストです。私たちが赦されない筈がありません。だからこそ、レントの季節に、最後の土壇場で主イエスとあいまみえた死刑囚の祈りが深い意味を持つのです。「主イエスよ、御国に入る時私を忘れないでください。」



### ◇ 日曜礼拝説教の要約 ◇

■1 月 31 日「種を育てる良い土地」ルカ 8:1-8 主イエスは譬えの名人でした。主イエスの譬えを聞いた者は聞き流すことができなくなり、立ち止まって主イエスのメッセージと向き合うことを余儀なくされるのです。「種をまく人」の譬えはその良い例です。この譬えで明らかなことは、農夫は主イエス自身、種とは神の言葉だということです。神の言葉が力を発揮するためには良い土地が必

要です。主イエスはこの譬えを「聞く耳のある者は聞きなさい」という言葉で締めくくられます。つまり、主イエスは私たちに直接問いかけておられるのです。「あなたは道端なのか、それとも石地なのか、それとも茨なのか、それとも良い土地なのか。あなたはそれらのどれになりたいのか。」こう問われた者は、自分自身を凝視せざるを得ません。◆この「良い土地」という言葉に象徴される人とは、この譬えを話していた主イエスの傍らにいた 3 人の女性、マグダラのマリア、ヘロデの家令の妻ヨハンナ、そしてスザンナという名の女性でした。これらの女性たちは、すべて過去において人生の危機と直面せざるを得なかった



人々でした。マグダラのマリアはかつて七つの悪霊に悩まされ、ヨハンナもスザンナも深い悩みや病に冒されたことがありました。そして彼女たちは主イエスによって癒され、人間らしさを取り戻すことができました。「重荷を負っているすべての人よ。私のもとに来なさい。そのあなたを慰めてあげる。」と語りかける主イエスと出会い、それを梃に本当に生きることを知ったという否定しようのない原体験です。癒され、人間らしさを回復した彼女たちは、その後主イエスの宣教の力強い支援者となります。つまり、100 倍の実を結ぶ「良い土地」となったのです。◆主イエスは私たちに「あなたは良い土地になりたいのか、どうなのか」と問われ、招かれているのです。福音の証人となるように招かれているのです。すべての人が、社会的地位、成功、能力、そして民族や人種や文化とは全く無関係に神の神の深い愛と慈しみの対象であることを身を以て証するように招かれているのです。果たして私たちは昨年度主イエスの福音の器として生きてでしょうか。葛藤のあるところに和解をもたらしたでしょうか。深い失望や悩みにある人に希望と光をもたらしたでしょうか。教会の活動は私たちの信仰を反映していたでしょうか。私たちの語る言葉や行動、毎日の生き方が、キリストの福音のしらべを奏でるものだったでしょうか。もしかしたらそうでなかったという悔いのほうが強いかもしれません。しかし、そういうことは主イエスと私たちの間にいかなる意味でも壁とはならないのです。主イエスはありのままの私たちをそっくりそのまま受け入れ、「心配することはない。全力を尽くしなさい。それで十分。後は私が引き受けた。」と新しく生きよと励ましてくださるのです。

■2 月 7 日「福音のエッセンスは聖餐式」ルカ 14:15-24 今日日は聖餐式の日曜日です。聖書を読むと、主イエスはその宣教において、一貫して食事を大切にされたことがよく分かります。主イエスにとって食事を共にすることは、神の愛を象徴するのに最も相応しい行為でした。「ディナー・パーティーのたとえ」は、この主イ

### 聖なる 1 週間 (Holy Week) 3 月 28 日から 4 月 4 日まで

3 月 28 日 11 時	棕櫚の日曜日の礼拝
4 月 1 日夜 7 時	洗足木曜日の聖餐式
4 月 2 日夜 7 時	良き金曜日の礼拝
4 月 4 日 11 時	復活祭の礼拝および持ち寄りランチ

以上のプログラムにお友たちやご家族をお連れください。これらは、主イエスが私たちのためにお払いになった犠牲と愛に感謝をもって思いを馳せる貴重で意義深い時です。社交室の掲示板にある持ち寄りディナーのサインアップ・シートに、出席する方のお名前と何を持ってくるかをお書きください。

# 教会ミニストリー報告

エスの考えを最も的確に表現しています。ある富豪がディナー・パーティーを催します。ところが、招いた人たちはいろいろな口実を作ってパーティーへの出席を断ります。そこでその富豪は、召使いを大通りに送り、そこにいる人すべてを食卓に招くように命じます。そのディナー・パーティーの場面を想像してみましょう。通りにいる人々を誰彼構わず連れて来るわけですから、男性が女性の隣に座り、パリサイ派の人が収税人と、学者が罪の女と、貴族の若者が皮膚病の女と、ユダヤ人がサマリア人と隣り合わせに座って食を分かち合っているのです。◆これは当時のユダヤ人にとって、それこそ想像もできない光景だった筈です。当時のユダヤ人社会の差別の構造をそれは根底からひっくり返す大事件だった筈です。主イエスは、この到底人間社会が許容する筈のない玉石混合のディナー・パーティーこそ、神が人間に望んでいる本当の姿だと主張されたのです。彼等は共に同じ食卓を囲み、パンを割き、ワインをつぎ合い、愉快地談笑しているのです。主イエスの招きに応えた人々の、開かれた平等な相互受容の関係がそこにあります。パウロの「もはやユダヤ人もギリシャ人もなく、奴隷も自由人もなく、男も女もない。キリスト・イエスにおいて私たちは一つである。」という言葉は、まさにこの真実に光を当てています。◆富者が貧者を軽く扱い、強い者が弱い者を組み敷くのが当然とされている世界と対称的な世界がそこにあります。今日、主イエスはご自身のテーブルに私たちを招き給うのです。聖餐式にあずかる私たちは、この世の地位や評判や名誉と全く無関係に、神に限りなく愛されている一個の人格的存在です。主イエスの食卓からほとぼり出る愛があるからこそ、私たちは問題と困難に満ちた世界を、本当に人間らしく、正々堂々と生きることができると言えます。その意味で、聖餐式は主イエスの福音のエッセンスと言えます。

## ◆ 宣教 — 救済プログラム ◆

■今年の復活祭献金は、その75%をJAUCの働きのために、25%を教会外の働きのためにそれぞれ献げられます。その25%の半分を多くの教派が協力してつくっている救済プログラム One Great Hour of Sharing に、もう半分を年金のない第三世界の引退牧師のための年金制度確立のためのプログラム Central Conference Pension Initiative に献げられます。具体的なことは社交室の掲示板をご覧ください。

■JAUCでは、牧師の指揮のもと、理事会は1月12日に発生したハイチ大地震による被災者救済のための献金運動を開始、以来多くの方から献金が寄せられています。さらに理事会は、皆さんから募っている献金をあわせて6,000ドルを合同メソジスト教会(UMC)とアメリカ改革派教会(RCA)の本部を通して送ることを決定しました。一回目の献金締切り2月14日までに、約3,700ドルの献金が寄せられ、更にボランティア・チームによるハイチ救済のためのペーク・セールで約620ドルを売り上げました。これにJAUCから差額が加えられて、近日中UMC、RCAそれぞれに3,000ドルずつ(合計6,000ドル)送られる予定です。災害の規模は想像を絶するものがあり、長い年月をかけての援助が必要です。これからも皆様のご協力を仰がねばなりません。一回目の締切り以降も引き続き献金を受け付けていますので、御意志のある方はどうぞ教会事務所にハイチ救済(Haiti Relief)と明記の上お送りください。皆様のご協力を心から感謝いたします。

## ◆ 霊的成長 — スモール・グループ ◆

**英語の聖書の学び:** 3月21日(日)1時半から、吉田ピーター・ジェリ夫妻によるスモール・グループ・プログラムとして英語での聖書の学び会が始まります。「IWA」というキリスト教団体が特に在米日本人、日系アメリカ人の方を対象に組まれたテキスト”The God Man Renewal Series: Meeting Jesus again as if for the Very First Time”(神の人更新シリーズ: イエスに初めて出会ったかのごとく再開する)を用います。賛美の後、ザカリア、盲人バルテマス、井戸端の女といった人々が、どのようにイエスと出会い、どのように変えられていったかを吉田夫妻が小ドラマ化してください。ディスカッション後、リフレッシュメントも用意されています。この学びの会は、毎月第3日曜日午後、礼拝堂で集います。皆さんふるってご参加ください。

## スモール・グループ

スモールグループは教会員の霊的成長のための教会プログラムです。少人数での親密な交わり(フェローシップ)を通して、クリスチャンとして実生活でどう生きるかなどを考え、互いに支えあい、高めあうことを目的とします。自分のニーズにあったスモール・グループ1つに所属し、同じメンバーで共に学び、祈っていきます。(自由意志参加)

SG 1. 女性信徒の学び会(バイブル)	第2, 4土1時	園田姉宅
SG 2. 日本人女性の会	第2火11時	時田姉宅
SG 3. 男性信徒の学び会(バイブル)	第2, 4日9時半	教会(日下部兄)
SG 4. 日本語での学び会	第2日2時	教会(春日姉)
SG 5. 日本語「葡萄の木」の会	第1, 4日2時	教会(小林姉)
SG 6. 日本語「証しと祈りの会」	毎月最終金夜7時	寒河江兄宅
SG 7. 英語での学び会	毎月第3日1時半	教会(吉田夫妻)

## ◆ 祈りのリクエスト ◆

今、苦悩の中にいる人、悲しみの中や孤独の中にいる人が私たちの隣人の中にいます。私たちクリスチャンはとりなしの祈りを主に捧げ、その人たちのために主の平安と癒しを求めて祈ります。次に記された方々、そしてそれ以外にも心に浮かぶ方々を、毎日のお祈りに覚えてください。祈りのリクエストに加えたい方がおられましたら事務所まで。■祈りのリスト: ジェン・アーボン(春日姉息女)、奥田久子、内山綾子、小口愛、久保スウ、ゴーマン美智子、寒河江修、下村義也、田部一憲、野間美奈子、松本三子、山田メアリー、劉世花諸兄姉(五十音順)。

## ◆ お知らせ ◆

■折り紙公開行事: 3月20日土曜日1時から4時まで、JAUC(日米シチズン・リーグ)との合同主催による折り紙のイベントがJAUCにて催されます。ドキュメンタリー映画、”Between the Folds”(折り目と折り目の間)は無料で上映されます。10人の折り紙職人と科学者がたった1枚の紙を使って折り紙という伝統芸術世界の可能性に挑戦する姿を描いたドキュメンタリーです。上映後には、ご自身で試されたい方のために、折り紙講習会が開かれます。リフレッシュメントも用意されます。お友達を誘って是非ご参加ください。

■婚約の知らせ: 2008年に日本に帰国された山田隆司兄が婚約され、1月31日に茨城の教会で婚約式が行なわれました。婚約者の方とは、ニューヨーク滞在中に出会われたそうです。挙式は11月27日の予定。お二人の新生活のためにお祈り下さい。

# 教会運営報告

■**本屋敷一彦(ジョージ)兄と美紀姉**は3月11日ニューヨークを発ち日本に帰国されます。帰国後には、献身を決意された本屋敷兄は会社を退職され、4月から日本の神学校(聖書神学舎)に入学される予定です。主に召されたご夫婦の上に主の豊かな祝福を祈ります。



■**クインタナ晴帆姉**は1月末教会事務職を辞め、ご主人ウイルバート兄が日本で就職されるために3月9日に3人の御子さん(真理、望、結和ちゃん)をつれてご家族みんなで日本に移住されます。この家族を主が導き支えてくださるよう祈ります。



■**春の大掃除**: 3月13日10時から4時まで教会の大掃除を行います。サインアップシートが社交室の掲示板にありますので、参加して下さる方は名前をご記入ください。ランチは用意されます。ご協力をお願いいたします。

■**事務所スタッフ**: クインタナ晴帆姉の後任には2月から**相田尚子姉**がスタッフとして働かれることになりました。新しい仕事シフトは以下の通りです。スタッフ間での若干の調整は行われます。月曜日: 相田尚子(10~2時)、野口順子(2~5時); 火曜日: 事務所休み; 水曜日: 吉田小夜子(10~5時); 木曜日: 野口順子(10~5時); 金曜日: 野口順子(10~5時)

## 📖 理事会および役員会 📖

2010年初の**理事会・役員会合同会合**は2月6日(土)に持たれ、下記の事項が話し合われました。

■**建物管理委員会**の今年の優先事項は、(1)牧師館修理を年内におわらせること、(2)教会の正面を改装することを検討すること、(3)教会の定期的な清掃、(4)3月13日に予定されている春の大掃除の4点です。なお今後数週間は大雪が予想されますので、教会前の雪かきを手伝うボランティアを募っています。お手伝いが出来る方は教会事務所までご連絡下さい。

■**礼拝委員会**: ◆**教会礼拝**については、司会の奉仕をして下さるより多くのメンバーが必要ではないか、また礼拝開始後は右側の扉からではなく正面玄関から教会に入るよう、ドアに案内の標識を貼るべきではないかなどの意見が出されました。また、「挨拶の時間」が最近あまりに長くなり、礼拝を中断する形になる上に慣れない人には重荷になる可能性があるため、この時間が本当に必要か今後検討する方針です。「初めて来られた方の紹介」も、人によっては戸惑うことがあるとの声が寄せられています。

◆**音楽**: (1)木曜日の聖歌隊練習は3月4日までありません。(2)ラリー・カーン兄の思い出を記念して、カーン鈴子姉がJAUCに50冊のメソジスト讃美歌集購入のための寄付を寄せて下さいました。今後さらに75冊分(1冊18ドル)の購入費用を会衆から募り、計125冊の新讃美歌集をそろえることを考えています。

■**伝道委員会**: ◆**聖書の学び**について、台所で昼食後の後片付けをされている方も鈴木先生の聖書の学びに参加できるよう、学びの会の開始時間は1時から1時15分に変更されました。また、会の記録を取るべきではとの意見も寄せられています。

◆**月報**: 相田尚子姉、クラーク英香姉が月報チームに新たに加わりました。月報は教会員だけに留まらず、家族や友人、また普段教会に来られない方々へアウトリーチする有益なメディアであり、月報チームメンバーにとっての霊的成長、学びのツールでもあります。

■**宣教委員会**: 教会は引き続きハイチ地震被災者のための支援金を募っていますが、缶詰などの食料品の寄付募集はすでに終了しました。ただし、フードバンクのために寄せられた寄付金は、フードバンクを運営している近所のカトリック教会へ贈られる予定です。なお、復活祭献金の一部を2団体(1)メソジスト教会によるアフリカ地域における引退牧師のための年金基金。アフリカの高齢牧師は、引退後の年金も無く困窮した生活を強いられており、彼らを支援するのが基金の目的です。(2)エキュメニカルな支援基金「シェアリングのための時間」寄付する提案が出されました。理事会は復活祭献金の25%をこの2つの基金へ寄付することを決定しました。

## ◇ 郵送および特別献金 ◇

聖日礼拝での約束献金・会場献金に加えて、普段教会に来られない方々からの郵送献金、及び特別献金に心から感謝いたします。下記は1月から2月14日までに頂いた献金一覧です。

Asai, Hisayo	Aita, Naoko
Baumann, Kumiko	Chin, Noel
Horiuchi, Martha	Ishigami, Rumiko
Kageyama, Kyoko	Kasuga, Yoshiko
Kubo, Sue	Kumada, Noriko
Kurihara, Ken & Noriko	Kuwada, Harry
Matsukuma, Michie	Miller, Rayvon
Okada, Sumiko	Sato, Fujio
Suzuki, Kaoru	Suzuki, Yugo & Elizabeth
Togasi, Motomi	Tokita, Miyako
Tora, Rie	Utsumi, Hisae
VIP	Watanabe, Kaori

Watanabe, Tsugie

## ハイチ被災者救済のための献金 (1/17-2/14: US\$4,153.25)

Aita, Naoko	Alexandre, Misato
Bake Sale (\$620)	Baumann, Kumiko
Bolster, Katsuko	Clarke, Junko
Fotinakis, Tony	Goldberg, June
Hara, Tomie	Hasegawa, Junko
Ichikawa, Kaori	Imado, Chizuko
Ishigami, Rumiko	Iwasa, Toshio
Iyoda, Hideko	Kasuga, Yoshiko
Kobayashi, Kaoru Jones-	Kurihara, Ken & Noriko
Kuwada, Harry	Maruyama, Mineko
Motoi, Keijiro	Nakamura, Oriie
Raducanu, Kazuko	Sonoda, Masayo
Sun, Hua Tzu	Sunday School
Suzuki, Kaoru	Suzuki, Moto
Suzuki, Yugo & Elizabeth	Tokita, Miyako
Utsumi, Hisae	Watanabe, Kaori
Watanabe, Tsugie	Woodson, Clara
Yokozeeki, Akira	Yoshida, Peter & Gerri
Yoshida, Sayoko	